

心に残ったキーワード
～平沢保治さんが語った言葉の重み～

なぜこんなにも強い気持ちを持っていただけるのだろうか？

平沢保治さんのお話を伺いながら、初めから最後までそのことが私の心から離れませんでした。

医学的には治る時代になっても社会的には不治の病
らい療養所は内務省管轄・警察によって管理
35体の胎児

生命の尊さ
苦しみは喜びをつくる
人として生きる
生きるとは希望を持つこと
不幸だとは思わない、70年ハンセン病、幸せは自分でつくる

恨みを恨みで返さない…母から教わった
糾弾運動では人の心は動かさない
わかった、何とかしてやろうと思わせなければ
追求型では差別問題は解決しない

社会を動かすために個人をどう活かすか
社会のためにいかに還元し貢献していくか
人権問題から入らない

『許す』それは『相手の立場に立つ』ということ

私とハンセン病の出会いは、約40年前学生時代に全生園の病院の見学でした。その後も何度か東村山を訪ねたり通ったりしています。昨年秋、大谷藤郎先生のご講演（最後だったかもしれませんが）をお聞きしました。何度聞いても人間の尊厳・差別・愚かさ・正しさ・人権などあらためて考えさせられます。大阪の四天王寺、鎌倉の極楽寺には、小笠原登先生のご実家のように、隔離される前に、らい病の方々を看病した施療院の名残りが残っています。また訪ねたいと思いました。

それにしても、今日の平沢さんの語りは特別でした。お母様の支えがあったとはいえ、なぜにこんなにも強い気持ちを持っていただけるのか？『許す』それは『相手の立場に立つ』ということという、やさしい言葉の中にはかり知れない重さを感じました。